

雅子さま女子ご出産

結婚 8 年半半で第一子

皇族誕生は 7 年ぶり

皇太子妃雅子さまは一日午後二時四十三分、東京都千代田区の皇居・宮内庁病院で女の子を出産された。結婚八年半で誕生した皇太子ご夫妻の第一子。



両陛下に「着帯の儀」報告のため、皇居に入られる雅子さま。十月二十六日、皇居・半蔵門

天皇、皇后両陛下の孫は三人目で、いずれも女の子。皇室にとつて一九九四年に生まれ、秋篠宮ご夫妻の二女佳子さまに続く七年ぶりの慶事となった。雅子さまは二年前の流産という悲しい出来事と皇太子さまとともに乗り越え、喜びの日を迎えられた。二十一日紀の皇室を担う新しい命の誕生は、直ちに両陛下や小泉純一郎首

相らに報告された。名前は陛下が決め、誕生七日目の命名の儀を経て、称号（幼少時の宮称）とともに公表される。

今後は、東宮職御用掛を務める堤治東大教授（産婦人科）を中心とする医師、看護婦の医療スタッフが、引き続き母子の健康を見守る。

宮内庁は今年四月十六日、雅子さまの懐妊の可能性を明らかにし、五月十五日に妊娠三カ月と正式発表した。以来雅子さまは、地方訪問など肉体的に負担の重い公務を休み、住まいの東宮御所で静養されていた。

経過は終始順調で、十月二十六日には、妊娠九カ月の目（戌（いぬ））の日に安産を願う皇室伝統の行事「着帯の儀」が行われた。